

千葉県最多の埋蔵銭

ふみわきいせき — 袖ヶ浦市文脇遺跡 —

◆埋蔵銭の発見

平成 22 年 10 月、袖ヶ浦市文脇遺跡の発掘調査中に千葉県内最多となる【埋蔵銭】が発見されました。文脇遺跡は、公民館や道路建設に伴う発掘調査がたびたび行われてきた遺跡で、過去の調査において弥生時代の終わりごろに使われた小銅鐸が発見されたことで有名になりました。

発見された埋蔵銭は、銅銭 29,931 枚という千葉県最多の出土枚数であったことから、文脇遺跡の名をさらに有名にしました。

平成元年度に行われた文脇遺跡の調査では、12 世紀～13 世紀の墓が発見されたほか、平成 21 年度には 15 世紀～16 世紀の城館跡（じょうかんあと）などが発見されていました。平成 22 年度の調査では、中世の竪穴遺構（たてあないこう）や掘立柱建物跡（ほったてばしらたてもものあと）と呼ばれる住まいの跡が発見されており、中世の人々の生活の痕跡が色濃く残っている地域であることが詳しくわかってきたところでした。その調査の最中に大量の埋蔵銭が発見されたのです。



◆驚きの調査方法

当初はわずかな数の銭であろうと思われましたが、掘り進むうち多量の銭が姿を現しました。しかもその銭は、容器に入れられていたようなまとまりがあり、何らかの目的で穴の中に埋められた【埋蔵銭】であることが明らかになりました。現地での調査が進むうち、銭が埋められた時の状態をよく残していることがしだいにわかってきました。どれだけの銭が埋まっているのか詳細に調べるには相当な期間が必要と判断されたことから、平成 22 年 11 月初めに周囲の土ごと切り取るという作業が一週間かけて行われ、室内で発掘することになりました。



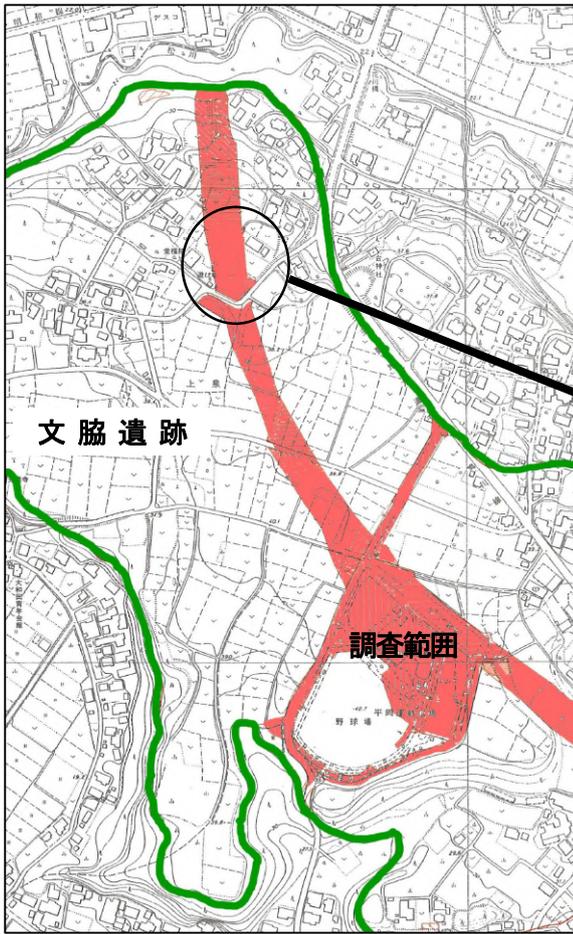
銭の検出状況（現地）

◆室内の発掘

室内に運び込まれた銭をよく観察すると、銭に紐を通した一緡（ひとさし）と呼ばれる単位で連なっていることがわかりました。できるだけその単位を見きわめながら、慎重に取りあげ作業を続けていきました。3 か月かけて、掃除機で掘り出した土を吸い取り、出土状況の写真撮影・実測を繰り返しながら作業を進め、全部の銭を取りあげた後の穴も調べました。

◆銭のクリーニングと分析作業

取り出された銭は、その多くが貼り付いて塊となっていました。貼り付いた銭どうしを工具で剥がし、ヤスリで銅のさび（緑青）を落としました。銭一つ一つの文字を読むためのクリーニング作業を続け、30,000 枚あまりの銭の種類をすべて特定した結果、3 ページに示した表のようになりました。



文協遺跡の調査範囲



埋蔵銭周辺の中世遺構群

◆分析の成果

分析の結果、埋蔵銭の枚数は、29,931枚に上りました。そのほとんどが、一緡(ひとさし)と呼ばれる単位で藁紐に通され、玉結びではずれないように止められて、幾つも連結されていたことがわかりました。一緡の単位が確認できた194のグループの78%が、97枚を一緡としていました。鎌倉時代後期から室町時代にかけて銭97枚をもって100枚とみなす商慣習があったと言われており、そのことを、裏付けるものとなりました。

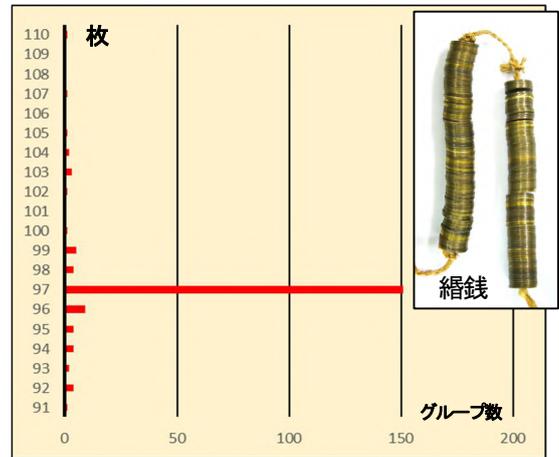
銭の種類は、中国、朝鮮、日本などの銅銭が71種類確認され、集計の結果、最も多いのが北宋銭の25,514枚(85.2%)、次いで唐銭2,604枚(8.7%)、南宋銭857枚(2.9%)でした。

この3種で全体の96.8%を占めていました。中でも最も多いのは、北宋銭の皇宋通寶3,747枚で、前漢の四銖半兩(初鑄年BC175)、日本の皇朝十二銭の富寿神寶なども少ないながらもありました。

◆銭が埋められた時期はいつか

最も新しい時代の銭は、中国は元の時代の至大通寶(1310年～)でした。中国で鑄造され、海を渡って日本にやってきた銭は、人から人へとわたり文協遺跡の地に埋められるまでにどれだけの歳月が流れたのでしょうか。多く流通していた洪武通寶(1386年～)が含まれていないことから、1400年代に入ってから埋められた可能性は低いと考えられます。このことから、文協遺跡の埋蔵銭は、1350年～1400年までの時期に埋められた可能性が最も高いと考えられ、時代は足利尊氏による室町幕府が開かれた頃よりも後の頃と推測されます。

文協遺跡の埋蔵銭は、全国の埋蔵銭の中でも最も古い時期にあたり、今後の貴重な資料となるでしょう。

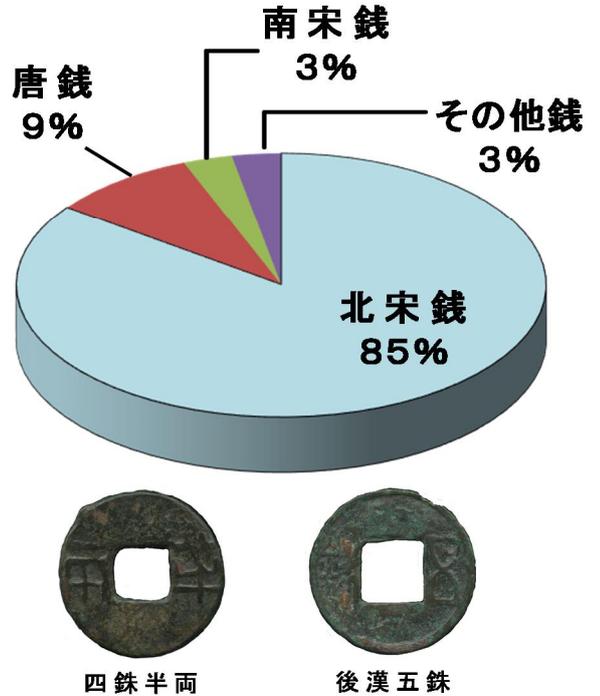


一緡の枚数

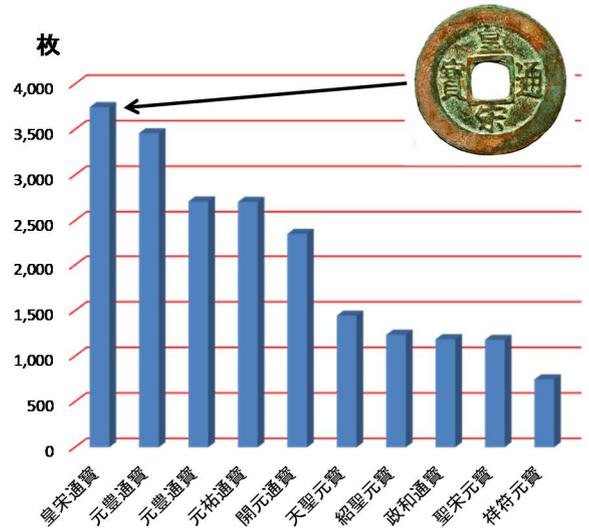
文協遺跡から出土した埋蔵銭の銭種

No.	銭種	よみ	王朝名等	初鑄年	総枚数	総数比	時期別比
1	四銖半兩	よんしゅはんりょう	前漢	BC175	3	0.01%	0.01%
2	貨泉	かせん	新	14	1	0.00%	0.00%
3	後漢五銖	ごかん・ごしゅ	後漢	24	20	0.07%	0.07%
4	隋五銖	ずい・ごしゅ	隋	581	1	0.00%	0.00%
5	開元通寶	かいげんつうほう	唐	621	2,354	7.86%	8.70%
6	乾元重寶	けんげんじゅうほう	唐	758	125	0.42%	
7	開元通寶	かいげんつうほう	唐	845	125	0.42%	0.02%
8	通正元寶	つうせいげんぼう	前蜀	916	1	0.00%	
9	天漢元寶	てんかんげんぼう	前蜀	917	1	0.00%	0.18%
10	光天元寶	こうてんげんぼう	前蜀	918	1	0.00%	
11	乾德元寶	けんとくげんぼう	前蜀	919	4	0.01%	85.24%
12	漢通元寶	かんつうげんぼう	後漢	948	2	0.01%	
13	周通元寶	しゅうつうげんぼう	後周	955	20	0.07%	
14	唐國通寶	とうこくつうほう	南唐	959	34	0.11%	
15	開元通寶	かいげんつうほう	南唐	960	19	0.06%	
16	宋通元寶	そうつうげんぼう	北宋	960	106	0.35%	
17	太平通寶	たいへいつうほう	北宋	976	286	0.96%	
18	淳化元寶	じゅんかげんぼう	北宋	990	262	0.88%	
19	至道元寶	しどうげんぼう	北宋	995	505	1.69%	
20	咸平元寶	かんぺいげんぼう	北宋	998	476	1.59%	
21	景德元寶	けいとくげんぼう	北宋	1004	637	2.13%	
22	祥符元寶	しょうふげんぼう	北宋	1009	746	2.49%	
23	祥符通寶	しょうふつうほう	北宋	1009	493	1.65%	
24	天禧通寶	てんきつうほう	北宋	1017	637	2.13%	
25	天聖元寶	てんせいげんぼう	北宋	1023	1,446	4.83%	
26	明道元寶	めいどうげんぼう	北宋	1032	126	0.42%	
27	景祐元寶	けいゆうげんぼう	北宋	1034	452	1.51%	
28	皇宋通寶	こうそうつうほう	北宋	1038	3,747	12.52%	
29	至和元寶	しわげんぼう	北宋	1054	345	1.15%	
30	至和通寶	しわつうほう	北宋	1054	136	0.45%	
31	嘉祐元寶	かゆうげんぼう	北宋	1056	418	1.40%	
32	嘉祐通寶	かゆうつうほう	北宋	1056	704	2.35%	
33	治平元寶	じへいげんぼう	北宋	1064	536	1.79%	
34	治平通寶	じへいつうほう	北宋	1064	102	0.34%	
35	熙寧元寶	きねいげんぼう	北宋	1068	2,711	9.06%	
36	元豐通寶	げんぷつうほう	北宋	1078	3,460	11.56%	
37	元祐通寶	げんゆうつうほう	北宋	1086	2,706	9.04%	
38	紹聖元寶	しょうせいげんぼう	北宋	1094	1,236	4.13%	
39	紹聖通寶	しょうせいつうほう	北宋	1094	1	0.00%	
40	元符通寶	げんぷつうほう	北宋	1098	444	1.48%	
41	聖宋元寶	せいそうげんぼう	北宋	1101	1,180	3.94%	
42	崇寧通寶	そうねいつうほう	北宋	1102	1	0.00%	
43	崇寧通寶	そうねいつうほう	北宋	1103	1	0.00%	
44	大觀通寶	たいかんつうほう	北宋	1107	323	1.08%	
45	政和通寶	せいわつうほう	北宋	1111	1,187	3.97%	
46	宣和通寶	せんなつうほう	北宋	1119	104	0.35%	
47	建炎通寶	けんえんつうほう	南宋	1127	11	0.04%	
48	紹興元寶	しょうこうげんぼう	南宋	1131	1	0.00%	
49	紹興通寶	しょうこうつうほう	南宋	1131	2	0.01%	
50	隆興元寶	りゅうこうげんぼう	南宋	1163	1	0.00%	
51	淳熙元寶	じゅんきげんぼう	南宋	1174	213	0.71%	
52	紹熙元寶	しょうきげんぼう	南宋	1190	71	0.24%	
53	慶元通寶	けいげんつうほう	南宋	1195	75	0.25%	
54	嘉泰通寶	かたいつうほう	南宋	1201	50	0.17%	
55	開禧通寶	かいきつうほう	南宋	1205	30	0.10%	
56	嘉定通寶	かていつうほう	南宋	1208	152	0.51%	
57	大宋元寶	たいそうげんぼう	南宋	1225	3	0.01%	
58	紹定通寶	しょうていつうほう	南宋	1228	62	0.21%	
59	端平元寶	たんぺいげんぼう	南宋	1234	3	0.01%	
60	嘉熙通寶	かきつうほう	南宋	1237	7	0.02%	
61	淳祐元寶	じゅんゆうげんぼう	南宋	1241	50	0.17%	
62	皇宋元寶	こうそうげんぼう	南宋	1253	17	0.06%	
63	開慶通寶	かいけいつうほう	南宋	1259	4	0.01%	
64	景定元寶	けいていげんぼう	南宋	1260	41	0.14%	
65	咸淳元寶	かんじゅんげんぼう	南宋	1265	64	0.21%	
66	正隆元寶	せいりゅうげんぼう	金	1157	35	0.12%	
67	大定通寶	たいていつうほう	金	1178	2	0.01%	
68	至大通寶	しだいつうほう	元	1310	5	0.02%	0.02%
69	東國通寶	とうこくつうほう	高麗	1097	1	0.00%	0.02%
70	海東通寶	かいとうつうほう	高麗	1097	5	0.02%	0.02%
71	富寿神寶	ふじゅしんぼう	日本	818	1	0.00%	0.00%
72	「私鑄銭」	-	中国	-	356	-	-
73	「模鑄銭」	-	日本	-	414	2.67%	2.67%
74	「烏銭」	-	日本	-	20	-	-
75	不明	-	-	-	10	-	-
合計					29,931	100%	100%

銭種の時期別構成比



銭種別トップ10



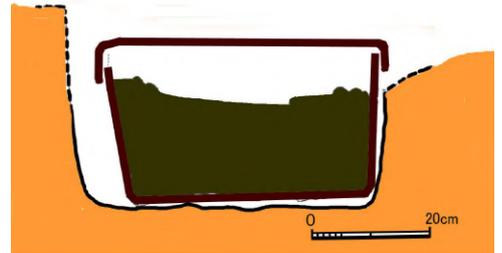
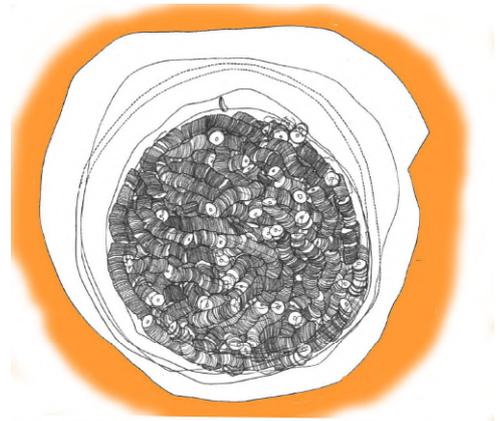
最も新しい銭
至大通寶
(初鑄年1310年)



文協遺跡の銭が埋納された時期

時代	年代	埋納銭時期区分	文協遺跡埋納時期	古瀬戸・大窯製品の年代	歴史事象			
鎌倉時代	1200年			古瀬戸期	前期様式	I期	1274年 元寇(文永の役) 1281年 元寇(弘安の役) 1333年 鎌倉幕府滅亡	
	1250年					Ⅱ期		
						Ⅲ期		
						Ⅳ期		
	1300年	第1期			中期様式	I期		南北朝動乱期
						Ⅱ期		
						Ⅲ期		
						Ⅳ期		
室町時代	1350年	第2期	埋納時期	瀬戸・美濃 大窯期	後期様式	I期	1392年 南北朝合一	
	1400年	第3期				Ⅱ期		
	1450年	第4期				Ⅲ期		
	1480年	第5期				Ⅳ期古		
	1530年	第6期				Ⅳ期新	1467年 応仁の乱	
	1560年	第7期			第1段階	前半		
					第2段階	後半		
	1590年	第8期			第3段階	前半		1573年 室町幕府滅亡
		第4段階	後半					
江戸時代	1610年					末	1603年 江戸幕府成立	

※ 埋納銭時期区分は、鈴木公雄『出土銭貨の研究』1999を参考とした。
 ※ 陶器編年は『愛知県史 別冊 中世 近世』を参考とした。



曲物に入れられた埋蔵銭の様子



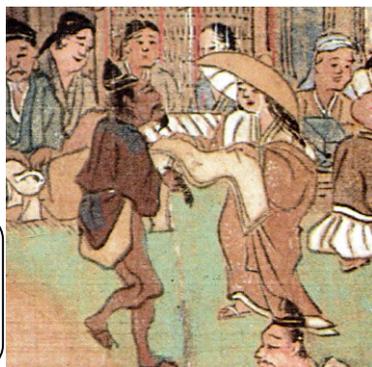
かろうじて底に残った曲物の底板



一緡の様子がよく分かる出土状況



わら紐を銭に通した状態



右図 男が画面中央の女性の持っている織物を緡銭で買おうとしている様子。(13世紀末の備前福岡市の場面)
 『一遍聖絵』(清浄光寺・歡喜光寺蔵) 部分

◆銭が入られた容器

銭が取り除かれた後には、銭を入れていた容器の痕跡が現れました。分析の結果、杉を使った曲物を穴に設置し、徐々に緡銭を蓄えていったと考えられます。銭の総数 29,931 枚の総重量は、約 107 kgあり、一度に埋められた可能性は、低いと考えられます。総数を一緡 97 枚で割ると 309 緡で約 31 貫文(1貫は 1000 枚)にもなり、一本にすると 46.4mにもなります。室町時代に入る頃になると、全国で銭が埋蔵されるようになります。なぜ銭が埋蔵されるのか、明らかな答えは出ていません。埋めた人や緡銭を作ったのはどんな人達なのかなど、まだまだ謎に包まれています。